

令和 3 (2021)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	非分裂細胞である心筋細胞のDNA損傷と老化による心不全発症機序の解明と応用
研究代表者	小室 一成 (東京大学・医学部附属病院・教授) ※令和 3 (2021)年 7 月末現在
研究期間	令和 3 (2021)年度～令和 7 (2025)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>【課題の概要】</p> <p>本研究は、心筋細胞の老化・不全化における p53 シグナル活性化の重要性に注目して、心筋細胞において DNA 損傷が生じる機序や p53 シグナルが心筋機能を破綻させる機序、心筋リプログラミングの機序、心筋不全の病的意義などについて、マルチオミックス解析システムやゲノム編集技術を用いて解明することを目指す。</p> <hr/> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】</p> <p>心筋不全の本質について p53 シグナル活性化という視点から解明することを目指す独創性が高い研究であり、高い学術的意義を有している。</p> <p>また、超高齢社会において心不全は急増しており、本研究の成果として期待される心筋機能破綻メカニズムの解明や、その成果を基盤にした治療法開発は医療上、社会上の課題解決に貢献することが期待される。</p>